

認知機能およびAD病態に対する ビフィズス菌MCC1274の効果



講師：鄭 且均 准教授

名古屋市立大学 大学院医学研究科
神経生化学分野

日時：2022年7月14日（木）17:00～

場所：名古屋市立大学桜山キャンパス
医学部研究棟11階 講義室B

本セミナーはZOOMによるオンライン配信も致します。オンライン
での参加は下記URL又はQRコードからログインしてください。

URL：<https://us02web.zoom.us/j/86900120599>



私たちの腸には約100兆個もの細菌が住んでおり、その種類は100種類を超えています。近年、腸内細菌とアルツハイマー病（AD）が密接に関連していることが明らかになっております。ヒトとADモデルマウスを用いた研究では、腸内細菌の組成（腸内細菌叢）が認知機能に影響することが報告されています。また、いくつかのプロバイオティクスをADモデルマウスに摂取させると認知機能の改善が見られますが、プロバイオティクスが認知機能やAD病態に影響する分子メカニズムは不明であります。我々は、ビフィズス菌MCC1274を野生型またはADモデルマウスに摂取させたところ、ADモデルマウスで見られる記憶障害が予防されました。そのメカニズムとしては、ビフィズス菌MCC1274はA β 産生や沈着を低下させることや海馬でのミクログリアの活性化を抑制させることで記憶障害を予防することを見出しました。本セミナーでは、認知機能およびAD病態に対するビフィズス菌MCC1274の効果を紹介します。

世話人：山川和弘（医学研究科・神経発達症遺伝学分野）

TEL: 052-851-5612, E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp